



たばたあずみ

Tel・Fax
550 6674



山根とみえ

Tel・Fax
550 4224



戸沢ひろゆき

Tel・Fax
558 9721

3月市議会

たばたあずみ議員の一般質問

たばたあずみ議員は3月議会の一般質問で (1)学力テストについて (2)小中学校における性同一性障害の対応について (3)男女共同参画について 質問しました。以下、内容をお知らせします。

学力テスト 結果公表しないで

文科省は平成26年度の全国学力テストについて、対象学年全員に実施し、その公表を自治体に任せるとしました。子どもたちを無意味な競争に駆り立てる結果公表はすべきではありません。市の考えを問いました。

市は、個別の学校名を明らかにした公表は教育上の影響を踏まえて慎重に判断するようにとの文科省の「配慮」と、教育指導の充実などに役立てるという目的から、十分な協議と校長会との調整などのうえで判断すると答えました。

たばた議員は、市が学力テストの目的を「高得点を取る

こと」ではなく、「子どもたちの学習上の到達点・問題点を明らかにすること」と考えていることを確認した上で、文科省の配慮事項自体、結果の公表が及ぼす悪影響を認識したうえのものだと指摘し、学校別の結果公表をしないと明言するよう求めましたが、市は慎重に検討すると答えるにとどめました。

たばた議員は、全員実施の学力テストは不必要と訴え、結果公表をしないで来た立場を、これからも守るよう要望しました。



どの子ども大事にされる学校に

からだの性とところの性が一致しない性同一性障害は、徐々に知られるようになって来ましたが、まだ十分に知られていないとはいえ、学校での対応も十分とはいえません。性別違和感を持つ子どもも、自己評価を高められる環境にするため、教育関係者への性同一性障害の理解を深める努力について質問しました。



市は校内研修や文科省からの通知文の周知・徹底を図っていると答え

ました。

ました。

たばた議員は「着替えを別室でしたい」「制服のスカートに抵抗がある」などの例を挙げ、どのような対応をするのか質問しましたが、市はどこまで明らかにできるかが問題として、具体的な対応には触れませんでした。

たばた議員は、公表かがまんかを天秤にかけるような対応をしないよう求め、また、市内で活動している当事者を迎えた研修などの実施を提案しました。

市は、気軽に相談できる環境づくりに努めるとし、まずは教員の理解を進めるために当事者を招くことも考えたいと答えました。

市職員から男女平等を

国連女子差別撤廃委員会からの再三の改善勧告にもかかわらず、日本の女性の雇用や政治的・公的活動への参画は一向に進んでいません。当市での女性職員の登用や、パートナーである男性職員の育児休業の取得状況について質問しました。

市は、現在女性職員が425人中の131人(31%)、管理職は1%未満であり、今後管理職を3%にすることを当面の目標に育成に取り組んでいる、男性職員の育児休業取得は22年度から1~2人になっていると答えました。

たばた議員は、こんな質問をする必要がない社会になるようにと前置きし、女性職員を増やそうという意識がある

のかと質問、市は女性の採用が3割程度なのは偶然で、優秀なら女性も男性も関係なく採りたいと答えました。

たばた議員が22年6月に質問したときは、男性育児休業取得者はゼロでした。以来、取得者が出てきたことを評価し、さらなる取得促進の努力を求めました。一方で、世界銀行で取り組まれた女性問題解消の取り組みを紹介しつつ、非正規職員は614人中女性が550人(89.5%)であることを明らかにし、非正規の仕事は女性がやるものという間違ったメッセージを送っている可能性を指摘しました。

たばた議員は、男女共同参画を進めるなら、まず市職員に女性を増やすことが必要と訴えました。



法律相談

3月27日(木) 13時30分~15時 予約が必要です。市議団までご連絡ください。